

授業概要

社会学Ⅱでは、現代社会を彩るさまざまな文化的事象をとりあげ、社会との関係を学ぶ。映像資料や音響資料を用いながら、音楽、広告、観光などの身近なテーマについて社会的に考える。この講義は社会学Ⅰの応用編という側面もあるが、必ずしも社会学Ⅰを履修していなくても構わない。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：文化とは？社会学とは？
第 2 回	音楽（1）教育と音楽
第 3 回	音楽（2）音楽聴取の変遷
第 4 回	広告（1）マス広告
第 5 回	広告（2）インターネットと広告
第 6 回	都市（1）ショッピングモール
第 7 回	都市（2）万博とテーマパーク
第 8 回	ファッション（1）——メディア文化としてのファッション
第 9 回	ファッション（2）——ファッションと自分らしさ
第 10 回	映像と社会——テレビと動画サイト
第 11 回	宗教——現代社会における宗教の姿
第 12 回	観光（1）——マスツーリズムとニューツーリズム
第 13 回	観光（2）——埼玉とアニメ聖地巡礼
第 14 回	アイドルと労働
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

現代の文化をめぐる諸事象・諸問題について、社会との関係から考え、意見を述べることができる。現代社会の仕組みについて、基礎的な知識を修得する。

履修上の注意

講義時にコメントシートを配布し、授業の感想や自らの考え、疑問点等を書く時間を設ける。

予習・復習

生活のなかで、「当然だ」「こうあるべき」「仕方ない」と感じる出来事に遭遇したとき、なぜそうなのか、本当にそうなのか、考えておいてほしい。

講義内で示した参考文献や作品に目を通し、自主的な学習を行うこと。

講義内で課題を出す場合があるので締め切りまでに取り組んでくること。

評価方法

筆記試験（60%）

コメントシートおよび授業への参加姿勢（40%）

テキスト

テキストは指定しない。必要に応じてプリント配布やスライド投影を行う。

授業概要

社会とは、さまざまな社会関係が絡み合う複雑な塊である。この社会学Ⅱでは、社会学Ⅰで学んだような個々の社会関係が、相互にどう影響しあって全体社会を構成しているかについて講義する。家族、職場、学校や地域と関わりながら生きる現代人が、これら複数の社会領域の要求に応えるためにいかに奮闘しているのか、またそうする上でどんな困難や問題を抱えているのかを、具体的な事例を見ながら考える。また、それらの問題が現在、社会的にどう解決されようとしているかについても触れ、現代の日本社会とその中に生きる私たち一人ひとりの可能性について考える。なお、この授業は社会学の応用編と位置付けられるが、社会学Ⅰを受講していなくても十分理解できる内容である。

授業計画

第 1 回	全体社会を見る切り口としての労働
第 2 回	日本的組織の特徴と近年の変化
第 3 回	男性・正社員の労働とその問題点——働き過ぎ
第 4 回	女性の労働とその問題点——家庭内労働と雇用労働の両立困難
第 5 回	女性の就労支援策とその国際比較
第 6 回	非正規労働とその問題点——不安定就労
第 7 回	働きやすい社会へ向けての取り組み
第 8 回	「私らしさ」とは何か——役割演技と自己形成のしくみ
第 9 回	「男性/女性としての私」をつくるしくみ
第 10 回	多元的価値を育む社会へ
第 11 回	ラベリングとネガティブな役割の引き受け
第 12 回	「障害者としての私」をつくるしくみ
第 13 回	バリアフリー社会への変容
第 14 回	全体社会の構造を展望する——格差社会としての現代日本
第 15 回	全体のまとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

現代日本社会で起きている諸現象や、いま社会問題となっている事柄についての基本的な知識を持ち、それについて自分なりに整理して意見を述べられるだけの、考察力を身につけること。

履修上の注意

この授業はテキストを用いないので、毎回の授業をきちんと聞くことが不可欠である。積極的に出席し、学んだことをもとに社会現象について考えていこうとする、意欲的な態度での受講を期待する。

予習・復習

紹介された参考文献やインターネットなどを利用した自主的な学習のほかに、授業で扱ったテーマについての社会観察や考察の課題を出す。その結果は、授業内の小レポート等で報告してもらうことがある。

評価方法

主に学期末試験によって評価する（80%）。授業内に書く小レポート等も考慮する（20%）。

テキスト

とくに定めない。授業では主にプリント資料を使用する。